

行政視察等報告書

2025年 12月 3日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 よなご・未来

代表者氏名 国頭 靖 (印)

提出者氏名 土光均 (印)

(議員の場合)

議員名



下記のとおり報告します。

記

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	土光均 ..... ..... ..... .....
期日	2025年 11月 20日から                      2025年 11月 25日まで
〔視察等年月日・場所・内容〕 11月20日～21日 宮城県女川原発、旧女川駐在所建物、大川小学校、門脇層学校 などの震災遺構 22日～24日 「原子力災害」から命と健康を守る実践体験講座での福島県被災地実地研修 CREVA おおくま（大熊町）、おれたちの伝承館（南相馬市）、 震災遺構浪江町立請戸小学校、原子力災害伝承館（双葉町）、 原子力災害考証館、津嶋活性化センター及び津嶋地区（帰還困難区域） 25日 帰路 ..... .....	

〔視察等の目的〕

・女川原発の現状とその避難経路を確認する

・(実践体験講座)

座学による知識だけでなく、現地へ足を運び見て、体験すること、現地の方にお話を伺うことで、実際の汚染状況や事故による影響を骨身にしみて学び被ばくとは?防護とは?日頃の備えについて考える機会を持つ。

〔視察等要旨〕

・女川原発は、東日本大震災において、揺れによる損傷等の被害を受けたが、津波高さ 13 m に対して、防波堤の海拔高さは約 14 m でギリギリ難を逃れた原発。14年後の今、2号機は再稼働している。ただ、半島に位置するため、避難計画において避難経路が問題になっている。その経路を実際に車でたどることにより、その問題点を実感として把握できた。

・また旧女川駐在所(コンクリート造の建物が横倒し)、大川小学校跡(多くの児童生徒が避難の遅れで亡くなる)、門脇小学校(1階は津波、2・3階は津波火災に襲われる)の震災被害を後世に残すため震災遺構として、現物保存されているところ。写真等ではなく、実物を直接見ることによってその被害のすさまじさを肌で感じることができた。

・(実勢体験講座)

様々な立場、視点から福島原発事故の現状を伝えようとしている「おれたちの伝承館」「原子力災害伝承館」「原子力災害考証館」を訪れ、説明を聞くことにより福島原発事故の14年後の現状を広い視野で見ることができた。

また、大川小学校(多くの児童生徒の犠牲者が出た)と対照的に児童生徒の的確な判断により犠牲者を出すことがなかった請戸小学校を訪れた。

福島県内では、空間放射線測定器を携帯し、場所によりどのように変化するかを確かめながらの移動であった。放射線量は14年経った今でも震災前の10倍であるところが多々あり、場所によっては50倍という箇所もあった。しばらくそこに滞在していると、その線量(震災前の10倍)が、「日常である」という感覚を体験した。

津嶋地区の帰還困難区域では、実際に防護服を着用し立ち入った。

防護服の着用を実体験し、着用したときの「しんどさ」「不便さ」を肌身で感じた。帰還困難区域では、家を取り壊され更地になっていたり、家はまだ残っているが草木に覆われている姿を散見する。地元の人のお話では、家の取り壊しは、公費が出るが、帰還の意志を示すことが条件であるとのこと。住民の意思の寄り添った帰還政策ではないことの一端を垣間見た。

[視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点]

・本市は、島根原発から 30 km 圏には約 3 万 5 千人が生活をしている。40 km 圏内にはほぼすべての市民が該当する。従って、原発事故は「起きるもの」として、起きたときの対応を事前に準備することが必要となる。

今回の視察で、震災遺稿（特に学校）を実際に見、「大川の悲劇、請戸の奇跡」と呼ばれるが、その結果だけではなく、どのような要因がその分かれ目であったか、それを知ることにより、自然災害にどのように備えるかは、本市においても、特に学校教育の現場で活かすことが出来る事柄を学ぶことができた。

また、福島原発事故に関して、様々な視点からの「伝承」「考証」は、島根原発が隣接する本市にとって、原発とどう向き合うべきか、改めて考えさせられた。放射線に関して、その測定、防護服着用、帰還困難区域への立入等を実体験することにより、その知識を定着させることができた。

この視察で得た様々なことをもとに、市や県、さらには国に対して様々な提言をしていきたい。そして、万が一の事故時においても私自身、市民の健康・命をまもるために、より適切な対応ができるようになったのではと感じた。

経 費	旅 費	171,568 円
	合 計	171,568 円

(注) 氏名を自署する場合は、押印を省略することができる。

行政視察行程（土光議員）

月 日	行 程	宿 泊 先
11/20 (木)	7:20 8:40 9:07 9:34 9:40 9:46 10:03 11:39 米子空港====羽田空港=====浜松町=====東京=====仙台=====女川原発視察 ANA382便 東京モノレール JR京浜東北線大宮行 JR新幹線はやぶさ13号仙台行 レンタカー	昼食:仙台周辺  【ホテル】 石巻グランドホテル ☎ 0225-93-8111
	女川原発とその周辺現地視察 震災遺構見学 (石巻市大川小学校・門脇小学校、石巻南浜津波復興祈念公園、東松島市震災復興伝承館)	
	見学先=====ホテル	
11/21 (金)	ホテル=====震災遺構等見学 レンタカー	【ホテル】 コンフォートホテル 郡山 ☎ 024-941-2911
	震災遺構見学 (仙台市震災遺構荒浜小学校、名取市震災復興伝承館、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館、気仙沼向洋高校)	
	見学先=====ホテル レンタカー	
11/22 (土)	10:00 ホテル=====郡山駅 徒歩2分	【ホテル】 双葉屋旅館
	「原子力災害」から命と健康を守る 被災地実地研修 【場所】大熊町 【内容】・被災地域の視察・見学・体験談を通じて原子力災害の実態を知る ・放射線測定の実践・実習 ・伝承施設の見学 ・参加者同士の交流	
	研修先=====ホテル	



旅費計算表

令和7年11月20日 ~ 令和7年11月25日 (5泊6日)

よなご・未来 研修  
宮城県内・福島県郡山市

月 日	区 間	鉄道路線 名	区 間 キ ロ 数	目的地までの キ ロ 数	運 賃	グリーン	急 行 料 金		宿 泊 手 当 (朝食付の額)	宿 泊 費		
							特 別	新 幹 線		27,000円 (東京都)	14,000円 (宮城県)	11,000円 (福島県)
11/20	米子空港～羽田空港	ANA	776.0		46,410				1,600			
(木)	羽田空港～浜松町	東京 モノレール	17.0								11,440	
	浜松町～東京	JR	3.1									
	東京～仙台	JR	351.8		6,050			5,160				
11/21	宮城県・福島県内レンタカー移動								1,600			8,400
(金)												
11/22	被災地実地研修								800			
(土)												
11/23	被災地実地研修								1,600			
(日)												
11/24	郡山～東京	JR	226.7									
(月)	東京～浜松町	JR	3.1		4,070			4,470	1,600	18,000		
11/25	浜松町～羽田空港	東京 モノレール	17.0		519							
(火)	羽田空港～米子空港	ANA	776.0		往復							
計	議員旅費			111,719	57,049	0	0	9,630	7,200	18,000	11,440	8,400
	随行旅費			0								

出席議員 土光議員

議員旅費	111,719	×1名 =	111,719 円
参加費(実地研修費)	20,000		20,000 円
手数料	550	×1名 =	550 円
宿泊税	100	×1名 =	100 円
高速道路料金代	4,880		4,880 円
レンタカー代	29,150		29,150 円
ガソリン代	3,519		3,519 円
石巻市震災遺構門脇小学校入場代	600		600 円
自宅～米子空港までの自家用車代21km×25円×2=	1,050		1,050 円

合計 171,568 円

※ 宿泊手当(11/22日及び23日分)に係る食事の有無については  
NPO法人みんなのデータサイト清水様に確認済